



ナラ枯れの被害地。
赤いのは紅葉ではなく被害木

ナラ枯れの被害対策を 推進しています！

近年、ミズナラ等のナラ類が集团的に枯損するナラ枯れ被害が全国各地で拡大しています。ナラ

枯れは、カシノナガキクイムシによって伝播されるナラ菌によって引き起こされることが平成14年に明らかになりました。ナラ枯れとは、ナラ菌がコナラやミズナラといったナラ類の樹体内に拡がり、水切れ症状を起こすことで、樹木が枯れる森林病虫害です。

そこで、林野庁では、森林病虫害等防除法に基づき、平成14年度から駆除措置に対し、また、平成19年度からは新たに予防措置に対して支援を行っています。

かつて、短い周期で伐採・更新を繰り返すコナラやクヌギ等の薪炭林が全国各地に存在しましたが、化石燃料が主流になるにつれ薪炭材としての需要が減り、人の手が入らなく



(写真上) ビニールシートで被覆された状態
(写真下) 樹幹注入の様子

なって放置されるようになりまし
た。こうして、林齢の高いナラ類が
増えてきたことと、ナラ枯れ被害の
最近の拡大には因果関係があるので
はないかと言われています。例え
ば、直径が大きく太いナラ類にナラ
枯れの被害が顕著なことから、高
齢級のナラ林に特異な被害との見方
があります。

こうした被害への対策として、被
害木の探査及び駆除、健全木の保護
等を国庫補助の対象としているほ
か、殺菌剤の樹幹注入を行う実証事

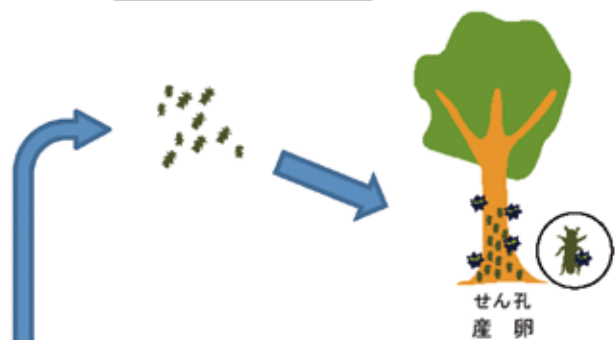
業を支援し、ナラ枯れ被害対策の推
進を図っています。さらに、ナラ枯
れの発生危険度予測に基づく総合的
な防除手法の開発に取り組んでいる
ほか、(独)森林総合研究所を中核
とした新たな防除手法の開発も進め
ています。例えば、カシノナガキク
イムシを誘引するフェロモンを利用
した駆除によって、面的な予防を可
能とする手法が開発されています。
林野庁においては、ナラ枯れ被害の
抑制に向けたこれらの取組を引き続
き進めていくこととしています。

ナラ枯れ被害の発生メカニズムと防除手法

(1) 発生メカニズム

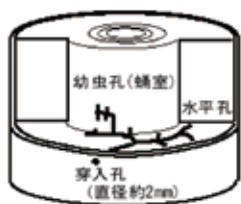


雄 雌
カシノナガキクイムシ
(体長 4.5~5.0mm)



カシノナガキクイムシは6月下旬~8月に発生。集中的かつ集団的に健全なナラ・カシ類にせん入し、体に付着したナラ菌を樹体内に持ち込む。

カシノナガキクイムシが多量のナラ菌(病原菌)を樹体内に伝播。ナラ菌が樹体内に拡がる。



樹幹内断面図
(夏から春にかけて樹幹内で生育)



ナラ菌により、樹木が水切れ症状を起こし、まもなく葉が変色して枯損に至る。枯損する時期は7月下旬~8月中旬までが多い。



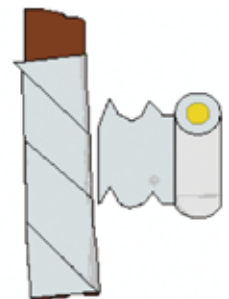
(2) 防除方法

● 予防手法(秋~春)

- ・健全木へのカシノナガキクイムシの侵入を防ぐため、粘着剤等の塗布またはビニールシートの被覆を実施。
- ・ナラ菌等の増殖を抑える殺菌剤の樹幹注入を春または秋に実施。



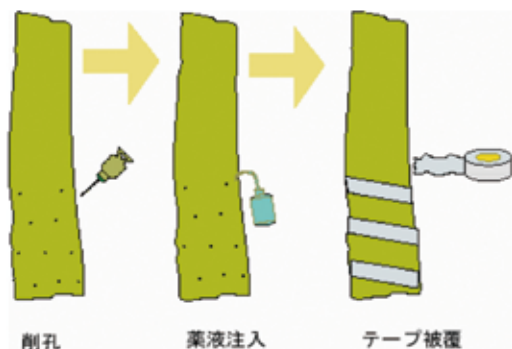
粘着剤と殺虫剤を塗布



カシノナガキクイムシの付着を防止するためのビニール巻き

● 伐倒駆除手法(秋~春)

- ・被害木内のカシノナガキクイムシを駆除するため、羽化脱出前に薬剤によるくん蒸または焼却を実施。



〔被害立木のくん蒸〕
比較的地際に近いところに削孔する性質を利用し、立木の状態で削孔し、くん蒸剤を注入した後、布製のガムテープで被覆し、駆除後に伐倒する。